

製品保証書

品名		製造番号	日～年	日まで
保証期間	平成 年 月	TEL		
ご住所	〒□□□□ □□□□	TEL		
会社名		横		
ご担当者名				
代理店住所氏名		TEL		
営業所住所担当者		TEL		

この製品の下記の通り保証いたします。

※密な品質管理と検査を経てお届けしたものです。正常な使用状態において万一故障した場合には、修理いたします。

()の代理店もしくは当社営業所・サービスセンターへ、《証書》をご届京の上お申しつけください。

※であっても、下記に記載する項目に該当する場合行いません。大切に保管ください。

日本国内においてのみ有効です。
Int'l valid only in JAPAN)

6. 保証書に印鑑のなきものは無効です。

今、求められるニーズを
コーポレーション

LET'S
レッツ

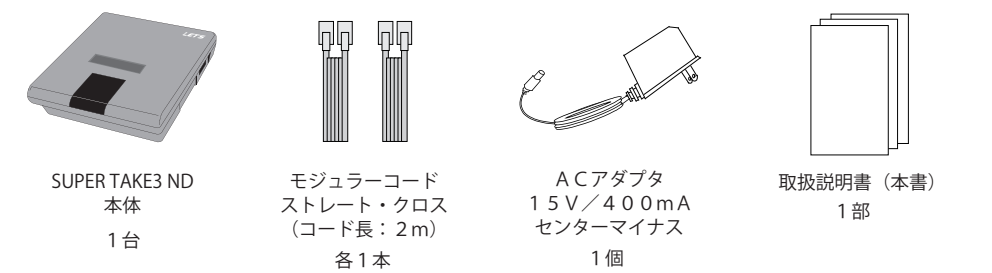
大

次の場合には有償で修理します。	その他の場合
(イ) 使用上の誤り、不当な取扱いによる故障および部品破損等。	(イ) 使用上の誤り、不当な取扱いによる故障および部品破損等。
(ロ) お買上げ後の搬送、設置、分解、修理等の作業による故障および部品破損等。	(ロ) お買上げ後の搬送、設置、分解、修理等の作業による故障および部品破損等。
(ハ) 付属機器、ケーブル、配線、接地不良等による故障および部品破損等。	(ハ) 付属機器、ケーブル、配線、接地不良等による故障および部品破損等。
(ニ) 火災、風水害、地震、雷害、暴風雨、大雪等による故障および部品破損等。	(ニ) 火災、風水害、地震、雷害、暴風雨、大雪等による故障および部品破損等。
(ホ) 特殊環境（たとえば、高温、高湿、塩害、振動など）による故障および部品破損等。	(ホ) 特殊環境（たとえば、高温、高湿、塩害、振動など）による故障および部品破損等。
(ヘ) 保証書の記載事項以外の原因による故障および部品破損等。	(ヘ) 保証書の記載事項以外の原因による故障および部品破損等。
(ト) 保証書の紛失あるいは所定事項の未記入または字句を勝手に訂正された場合。	(ト) 保証書の紛失あるいは所定事項の未記入または字句を勝手に訂正された場合。

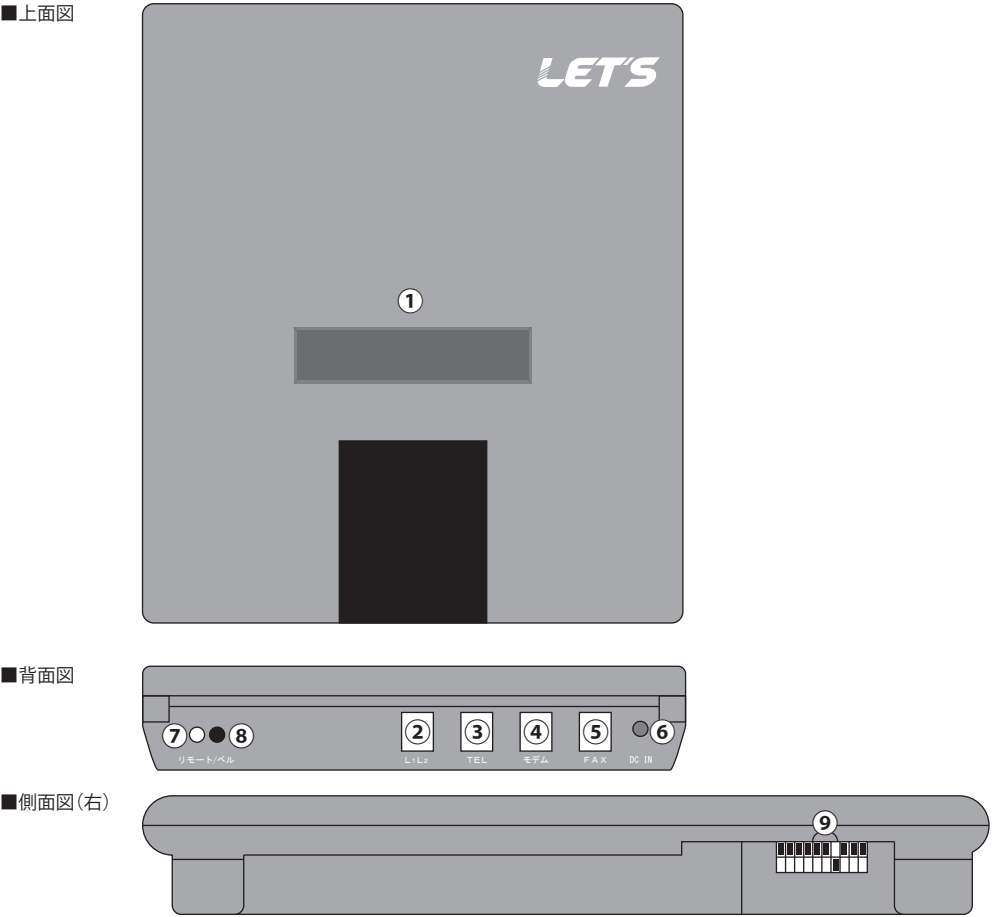
※仕様および外観は、改良のため予告なく変更されることがありますので、ご了承ください。

4. 商品構成

ご使用いただく前に、次の物が揃っているかを確認してください。
万一、足りない場合は、お手数ですがお買い上げの販売店または弊社までご連絡ください。



5. 各部名称



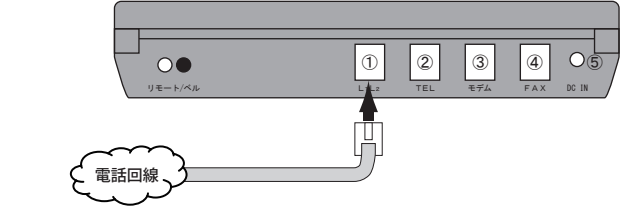
■名称	名 称	は た ら き
①	表示パネル	着信番号や発信番号等を表示します。
②	回線接続用モジュラー端子	回線と本装置を接続するコネクタです。
③	電話機接続用モジュラー端子	電話機、留守番電話機を接続するコネクタです。
④	モデム接続用モジュラー端子	モデムを接続するコネクタです。
⑤	FAX接続用モジュラー端子	FAXを接続するコネクタです。
⑥	電源アダプタ接続用ジャック	付属のACアダプタを接続するジャックです。
⑦	リモートモードランプ	リモートモード設定時に緑点灯します。 ボイスワープ作動中に緑点滅します。
⑧	自動ベルモードランプ	自動ベルモード設定時に赤点灯します。
⑨	ディップスイッチ	各種設定を行うスイッチです。

⚠ 注意 ディップスイッチのカバーを開けるときは、⓪ドライバなどを使用してください。
怪我の原因となることがあります。

6. 接続方法

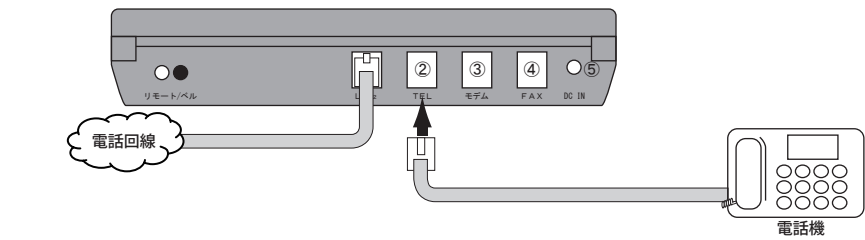
A. 回線との接続

電話回線（交換機・PBXなど）からのコードを①[L1L2]に接続します。



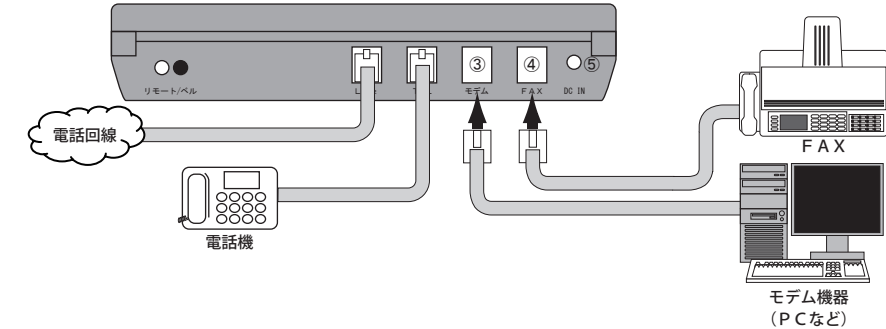
B. 電話機、留守番電話機、ナンバーディスプレイ対応電話機などとの接続

付属のモジュラーコードなどで、②[TEL]に接続します。
ナンバーディスプレイ対応電話機を接続する際は、【6-1. ナンバーディスプレイ対応電話機を接続する際の注意事項】を参照してください。



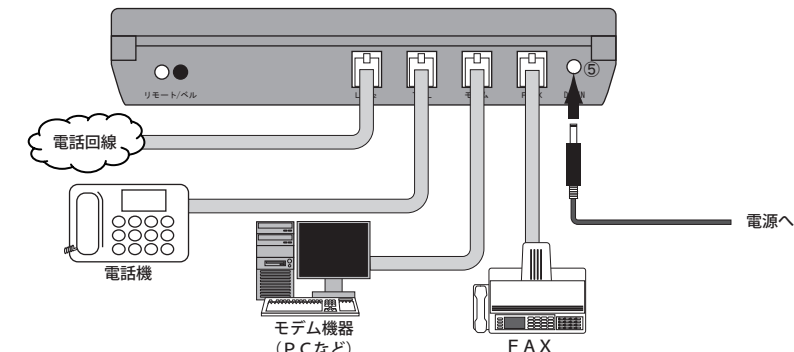
C. FAX、モデムなどとの接続

付属のモジュラーコードなどで、④[FAX]、③[モデム]などに接続します。



D. ACアダプタとの接続

付属のACアダプタを使用し、⑤に差し込んでください。
電源はAC100V、50/60Hz（一般家庭用電源）以外では使用しないでください。



6-1. ナンバーディスプレイ対応電話機を接続する際の注意事項

注意
① 本装置のディップスイッチの設定で、
[ナンバーディスプレイAモード] (ディップスイッチ1：下 2：下) または、
[ナンバーディスプレイBモード] (ディップスイッチ1：上 2：下)
に設定を変更して、ナンバーディスプレイを有効にしてください。

② リモートモード／自動ベルモードのどちらでも使用できますが、接続される電話機によっては正常に動作しない場合があります。
※ ②について、電話回線の極性を入れ替えて、本装置の電源をOFF->ONすると正常に動作する場合もあります。

動作

① FAX着信時、ナンバーディスプレイ対応電話機が2～3回鳴動しますが、故障ではありません。
② ①以降の動作は通常のリモートモード／自動ベルモードと同じです。
③ 本機能を使用時には、自動モード切替を無し (ディップスイッチ8を無し (上)) で使用してください。
発信・着信ができなくなる場合があります。

6-2. その他

表示パネル

本体上面に設置されている表示パネルは、ナンバーディスプレイAモードまたはナンバーディスプレイBモードでご使用いただいた場合に、着信時に発信者番号が表示されます。
また、TEL、FAX、モデムに接続された電話機などからの発信におきましても、発信の際のダイヤル番号が表示されます。

瞬断検知スイッチ

本装置の着信時、発信側の切断を検知する場合には通常ビジートーンを検知しますが、CPC信号（瞬断信号）も合わせて検知する場合にはディップスイッチ10を有り (上) にします。
※ノイズ等が多い場合には使用しないでください。ノイズをCPC信号と認識し、切断場合があります。

6-3. 停電の場合

・停電時（本装置に電力が供給されない状態）は、TEL端子のみ使用可能です。
この場合、本装置が関与しない状態（電話・FAX着信のすべてがTEL端子に接続された電話機へ着信を行う）になります。
停電時でも発信・着信を正常に行うため、必ず電話機はTEL端子へ接続してください。

6-4. 接続での注意事項

- 本装置に関しての注意事項
 - 本装置は極性に指定はありませんが、接続する電話機／FAX／モデムは極性の指定がある機種があります。
・「外部ベル」をご使用のお客様はTEL端子に並列接続してください。
 - 本装置をPBX内線／専用線などに接続した場合に、発信側が電話の呼出中に切っても、本装置に接続した電話のベルが所定の回数鳴動する可能性がありますのでご注意ください。
- 電話機に関しての注意事項
 - 電話機／留守番電話など、電話着信時に応答する端末をTEL端子に接続してください。
 - ホームテレホン／ビジネスホン／交換機などを接続する場合、TEL端子から各装置の回線接続端子へ接続してください。
- FAXに関しての注意事項
 - 本装置からの配線は、FAX本体の回線接続端子（L1・L2、LINEなど）に接続してください。
 - FAX本体は自動受信に設定してください。また、FAX本体の切替機能は解除してください。相手機種により正常に受信できなくなる可能性があります。
 - FAX本体に発信機能が内蔵されていないときは、必ず発信用の電話機をFAX本体に接続してください。
TEL端子に接続された電話機を発信用の電話機として使用する事はできません。
 - FAX本体に電話が内蔵されたものであっても、電話着信時にこの電話機で応答できません。
電話着信時の応答は、TEL端子に接続された電話機から行ってください。
 - ハンドセットが内蔵されていないFAX本体の場合、FAXモードを正常に運用できないことがあります。
- モデムに関しての注意事項
 - 本装置からの配線は、モデム本体の「LINE端子」に接続してください。
 - 通常は自動着信の設定で使用してください。ただし、FAXモードのときは手動着信に設定を変更してから使用してください。

7.各モードの設定

7-1. 自動ベルモード

注意
電話とFAXを自動的に切り替えます。着信すると本装置が自動応答し、FAX信号を検知するとFAXへ転送します。FAX信号がない場合は、電話機を呼び出します。
自動ベルモードには、ノーマル、ナンバーディスプレイAモード、ナンバーディスプレイBモードの3種類があります。

【ノーマル】
電話とFAXを自動的に切り替えます。
FAX信号を検知するとFAXへ切り替え、FAX信号が無い場合は電話機を呼び出します。

【ナンバーディスプレイAモード】
ナンバーディスプレイ回線を接続した場合、電話とFAXを自動的に切り替えます。
FAX信号を検知するとFAXへ切り替え、FAX信号が無い場合は電話機を呼び出します。
発信者番号情報（ナンバーディスプレイ情報）はスルー（直通）状態になりますので、FAX着信時でも電話機が鳴動します。
電話機が鳴動し、発信者番号情報を電話機が表示した後にFAX側の鳴動が開始されます。

【ナンバーディスプレイBモード】
（モデムダイヤルインでご使用の場合は、ナンバーディスプレイBモードで運用してください。）
ナンバーディスプレイ回線を接続した場合、電話とFAXを自動的に切り替えます。
FAX信号を検知するとFAXへ切り替え、FAX信号が無い場合は電話機を呼び出します。
本装置が発信者番号情報（ナンバーディスプレイ情報）をメモリして、電話着信時にその情報を再送出するので、FAX着信時には電話が鳴動せずにFAXの着信ができます。
接続された電話機が着信してから鳴動するまでに5秒程度の時間がかかります。
※回線の状況、送信側のファクシミリによっては鳴動する場合があります。

使用するためのディップスイッチ設定

ノーマル			＜設定例＞
モード切替	(ディップスイッチ1)	= 自動ベル (上)	 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
ナンバーディスプレイ	(ディップスイッチ2)	= 無し (上)	

ナンバーディスプレイAモード			＜設定例＞
モード切替	(ディップスイッチ1)	= リモート (下)	 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
ナンバーディスプレイ	(ディップスイッチ2)	= 有り (下)	

ナンバーディスプレイBモード			＜設定例＞
モード切替	(ディップスイッチ1)	= 自動ベル (上)	 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
ナンバーディスプレイ	(ディップスイッチ2)	= 有り (下)	

ランプ状態

自動ベルランプが赤色点灯します。

補足

※ディップスイッチの設定例は、初期設定値から自動ベルモードを使用した際の設定例となります。
他の機能と併用した場合、ディップスイッチの設定値は変わります。
※ディップスイッチの詳細は、【9. ディップスイッチ機能一覧】を参照してください。
※留守などで電話に出られなかった場合でも、発信者側（電話を掛けた側）は課金されます。
※電話機の呼び出しベル回数は約30回（約90秒）です。約30回以内に応答がない場合は切断します。
※仮着信を開始してから約8秒経過後に電話の呼び出しを開始します。
※FAXへの着信の時、FAX信号を検知した時点でFAX呼び出しを開始します。
※電話・FAXともに、発信者側（電話を掛けた側）には、応答までリングバックトーン（疑似呼び出し音）を送出します。
※発信者側、受信者側の双方に本装置が設置してある時に、トーン送出 (ディップスイッチ7を有り (上)) に設定することにより、電話番号をダイヤルするだけでモデムの自動切替も行えます。

7-2. リモートモード	
概要	
着信すると自動切替を行わず、電話機を呼び出します。 応答後、電話機からのダイヤル操作でFAX、モデム端子へ切り替えます。（応答するまで課金は発生しません）	
使用するためのディップスイッチ設定	
モード切替 （ディップスイッチ1） = リモート （T） ナンバーディスプレイ （ディップスイッチ2） = 無し （H） <設定例> ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ 12345678910	
ランプ状態	
リモートベルランプが緑色点灯します。	
補足	
※ディップスイッチの設定例は、初期設定値からリモートモードを使用した際の設定例となります。 他の機能と併用した場合、ディップスイッチの設定値は変わります。 ※ディップスイッチの詳細は、【9. ディップスイッチ機能一覧】を参照してください。	
自動モード切替について	
リモートモードを有効にして自動モード切替も有効にすると、電話機の呼び出しベルが10回以上鳴った場合に、次回以降の着信から自動ベルモードに移行することができます。 これにより、有人時（電話機の呼び出しベルが10回以上鳴る前に応答した場合）には常に電話へ着信が行われ、不在時（電話機の呼び出しベルが10回以上鳴った場合）には次回着信より自動ベルモードに移行され、電話なら電話着信、FAXならFAX機へ自動切替を行うことができるようになります。 自動ベルモードからリモートモードへ移行（解除）するには、電話機の実話器またはFAXの実話器などを上げることににより解除されます。	
電話機の呼び出しベル回数が10回以上鳴っても応答がない場合、次回着信時には自動ベルモード（ノーマル）となります。 リモートモード ↓ 自動ベルモード 電話機またはFAXの実話器を上げるとリモートモードに戻ります。 一度電話に応答すると、リモートモードに戻ります。 FAX受信の時は自動ベルモード（ノーマル）のまま戻りません。 リモートベルランプ（緑色）、自動ベルランプ（赤色）の両方が点灯します。	
ご注意 上記の動作は、自動モード切替を有効（ディップスイッチ8を「T」にした時のみ働きます。 ナンバーディスプレイAモードまたはナンバーディスプレイBモードの時は、この機能は使用できません。	

7-3. FAXモード	
概要	
電話・FAX・モデム等すべての着信に対して、直接FAXを呼び出します。	

使用するためのディップスイッチの設定	
モード切替 （ディップスイッチ1） = リモート （T） ナンバーディスプレイ （ディップスイッチ2） = 無し （H） FAXモード （ディップスイッチ6） = 有り （T） <設定例> ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ 12345678910	
ランプ状態	
リモートベルランプが緑色点灯します。	
補足	
※ディップスイッチの設定例は、初期設定値からリモートモードを使用した際の設定例となります。 他の機能と併用した場合、ディップスイッチの設定値は変わります。 ※ディップスイッチの詳細は、【9. ディップスイッチ機能一覧】を参照してください。 ※FAXモードはリモートモードでしか設定できません。自動ベルモードで設定をすると、誤動作が起こる場合があります。 ※自動ベルモード（ナンバーディスプレイAモード、ナンバーディスプレイBモード）のときは、この機能は使用できません。 ※リモートモード時のナンバーディスプレイ回線の場合、オンフック転送は使用できません。	

8. 操作方法

8-1. 基本操作

- 電話、FAX、モデムから発信したいとき

電話、FAX、モデムの各端末から通常の発信操作をしてください。

※他の端末が回線使用中の場合、受話器から話中音が聞こえます。他の端末が通話を終了してから再度発信操作を行ってください。
- 掛かってきた電話を受けるとき

電話機のベルが鳴ります。通常通り受話器を上げてお話しください。
- FAXが送られてきたとき
 - 自動ベルモード時

本装置がFAX信号を検知すると、自動的にFAXへ切り替えます。

FAX信号（CNG信号）が無い場合は、電話機へ切り替えます。

本装置がFAX信号を検知できなかった場合、下記項目4の手順で手動転送を行ってください。
 - リモートモード時

電話機に着信します。下記項目4の手順で手動転送を行ってください。
- 電話を受け、FAXから着信のとき

リモートモード時にFAX着信だったときなど、手動操作でFAXに切り替えできます。

FAX信号音が聞こえてきたら、電話機の「6」をダイヤルします。

「ビッピッピ」と合図音が受話器より聞こえます。（聞こえない場合はもう一度「6」をダイヤルしてください。）

すぐに（5秒以内）受話器をお戻しください。（電話を切る操作）

- 通話中にFAXへ切り替えたいとき
 - FAX信号を検知すると「ビッピッピ」と切替合図音が受話器より聞こえます。
 - すぐに（5秒以内）受話器をお戻しください。（電話を切る操作）
 - 電話機の呼出ベルが鳴り始めてから約1分経過すると通話中のFAX切替操作はできなくなります。
 - FAXへの切り替えは電話着信時に可能です。電話発信時には切り替えできません。
- 電話を受け、モデムから着信のとき／通話中にモデムへ切り替えたいとき
 - 電話機の「8」をダイヤルします。
 - 「ビッピッピ」と転送合図音が受話器から聞こえます。（聞こえない場合はもう一度「8」をダイヤルしてください。）
 - すぐに（5秒以内）受話器をお戻しください。（電話を切る操作）
 - 電話機の呼出ベルが鳴り始めてから約1分経過すると通話中のモデム切替操作はできなくなります。
 - モデムへの切り替えは電話着信時に可能です。電話発信時には切り替えできません。

8-2. 特殊操作

- 受話器を戻すだけでFAXへ転送できます。（オンフック転送）
 - 本装置のオンフック転送スイッチを有り（ディップスイッチ9を「T」）に設定して、電話機の実話器を上げた場合に、相手がFAXであれば受話器を戻すだけでFAXへ転送されます。
 - リモートモードでナンバーディスプレイ回線の時、この機能は使用できません。
 - 電話機より「6」をダイヤルして手動転送してください。
 - 接続回線（PBX内線、専用線等）によっては、この機能が正常に動作しない場合があります。
 - ディップスイッチの詳細は、【9. ディップスイッチ機能一覧】を参照してください。
- 電話が掛かってきて、留守など出られないとき
 - 自動ベルモードでは、電話の呼び出しベルを約30回以上鳴らします。応答が無いときは回線を切断します。
 - リモートモードでは、発信側が呼び出しを止める（電話を切る）まで電話機を呼び出します。
 - リモートモード時、本装置の自動モード切替を有り（ディップスイッチ8を「T」）に設定しておくことにより、10回以上呼び出して応答が無かったとき、次の着信からは自動ベルモードで動作します。（【7. 各モード設定】の【7-2. リモート設定】を参照してください。）
 - ディップスイッチの詳細は、【9. ディップスイッチ機能一覧】を参照してください。
- 発信側より直接本装置のモデム端子を呼び出す事ができます
 - 発信側・受信側の双方に本装置が設置してある場合、トーン送出を有り（ディップスイッチ7を「H」）に設定しておくことにより、発信側モデムから電話番号をダイヤルするだけで受信側モデムを直接呼び出すことができます。
 - 発信側に本装置が設置されていない場合、発信側モデムから電話番号をダイヤルして本装置が応答した後、「8」をダイヤルしてモデム端子を呼び出してください。
 - トーン送出を有り（ディップスイッチ7を「H」）に設定すると、本装置が着信した時点で送信先に「ビッピッ」と音を返します。
 - 本装置は必ず自動ベルモード（ディップスイッチ1を「H」）に設定してください。
 - 「8」をダイヤルする際、本装置が応答後8秒以内に送出してください。
 - 本装置のリングバックトーンと重なると検知できない場合があるため、ダイヤルする際は連続して2～3回送出してください。
 - ディップスイッチの詳細は、【9. ディップスイッチ機能一覧】を参照してください。

8-3. ボイスワープサービス

- 電話着信を転送することができます。
 - アナログのボイスワープサービスに対応しています。INS64やひかり電話のボイスワープサービスには対応していません。
 - 契約回線がプッシュ回線でないとご利用できません。
 - あらかじめ、NTTのボイスワープサービス「応答後転送を利用する」の設定をします。
 - 転送先の電話番号は、本装置の電源をOFFにしても消えません。
 - 転送先の電話番号は「184」・「186」などの番号を含めて登録ができます。
 - NTTの一部の番号は本装置の転送先電話番号として登録はできますが、転送動作は行いません。（「117」や「114」など）

N T Tボイスワープサービス「応答後転送を利用する」の設定
N T Tボイスワープを「転送開始」にしている場合は、あらかじめ「転送停止」にします。 受話器を上げ、①④②とダイヤルします。 ガイダンスが流れますので、続けて④とダイヤルします。（初期設定） ガイダンスが流れますので、続けて⑤とダイヤルします。（応答後転送の設定） ガイダンスが流れますので、続けて①とダイヤルします。（応答後転送ありに設定） ガイダンスが流れますので、続けて⑨とダイヤルします。（操作の終了） 「ブーッ、ブーッ・・・」と聞こえたら設定完了です。受話器を置きます。 N T Tのボイスワープを「転送開始」にする必要はありません。「転送停止」にしてください。

ボイスワープの転送先電話番号の登録
受話器を上げ、④⑨⑨⑨⑨とダイヤルします。 続けて、④③②⑦⑦とダイヤルします。 次に転送先電話番号を入力します。（例：転送先を携帯電話[090-1234-5678]としたとき） 例）⑦⑨⑦⑦①②③④⑤⑥⑦⑧ 最後に、④#を押して受話器を置きます。

転送を開始する
電話／FAXの着信を本装置が切り分け、電話着信の場合のみ指定した転送先電話番号へ転送を行います。 受話器を上げ、④⑨⑨⑨⑨とダイヤルします。 続けて、④#②⑦①とダイヤルします。 最後に、②#とダイヤルして、受話器を置きます。

転送を停止する
本装置のボイスワープ設定を解除します。 受話器を上げ、④⑨⑨⑨⑨とダイヤルします。 続けて、④#②⑦①とダイヤルします。 最後に、①#とダイヤルして、受話器を置きます。

2. 発信者番号でのFAX切り替え

- 登録された発信者番号から着信があった場合、そのままFAXへ切り替えます。
- 切り替えに必要な時間を短縮できます。

番号の登録方法
受話器を上げ、④⑨⑨⑨⑨とダイヤルします。 続けて、④#③⑦⑦とダイヤルします。 次に登録するFAX切替の対象電話番号を入力します。 （例：FAX切替の対象電話番号[012-345-6789]としたとき） 例）⑦①②③④⑤⑥⑦⑧⑨ 最後に、④#を押します。 登録に成功すると、「ビッポッ」と音が聞こえます。

- ※同じ番号を登録しようとした場合、「ビッピッピッ」とエラー音が聞こえます。
- ※登録件数がオーバーした場合、「ビッピッピッ」とエラー音が聞こえます。
- ※登録番号は1件につき16桁までです。
- ※登録番号は最大20件まで登録できます。

番号の削除方法
受話器を上げ、④⑨⑨⑨⑨とダイヤルします。 続けて、④#③⑦①とダイヤルします。 削除する番号をダイヤルします。 最後に、④#を押します。 削除に成功すると、「ビッポッ」と音が聞こえます。 ※登録が無い場合、「ビッピッピッ」とエラー音が聞こえます。

番号の確認方法
受話器を上げ、④⑨⑨⑨⑨とダイヤルします。 続けて、④#③⑦②とダイヤルします。 「ビッポッ」と音が聞こえ、表示パネルに登録番号が順番に表示されます。 登録番号が複数の場合は、1.5秒ごとに表示が切り替わり、すべての表示が終わると終了します。 ※電話機の実話器を置いても表示は継続されます。

番号の初期化方法
受話器を上げ、④⑨⑨⑨⑨とダイヤルします。 続けて、④#③⑦③とダイヤルします。 「ブブブブ・・・」と音が鳴っている間に①をダイヤルします。 初期化が成功すれば、「ビッポッ」と音が聞こえます。 ①以外のダイヤルの入力、または5秒間ダイヤルが無ければ初期化は実行されません。

8-4. モデムダイヤルイン

- モデムダイヤルイン機能について

N T Tの「ダイヤルインサービス（モデム信号方式）」を利用し、電話機、FAX、モデムに対してダイヤルイン番号を割り当て、それぞれの機器を直接呼び出すことができます。

 - N T Tのサービスで「ダイヤルインサービス」の「モデム信号方式」に加入していただく必要があります。
 - N T Tのサービスで「ボイスワープ（応答後転送）※アナログ回線のみ」とモデムダイヤルイン機能の併用はできません。
 - 対向サービスとモデムダイヤルイン機能の併用はできません。
 - モデムダイヤルイン機能をご使用時、ナンバーディスプレイ番号の表示はできません。
 - 発信者番号でのFAX切替機能【8-3. ボイスワープサービス】の【2. 発信者番号でのFAX切り替え】参照）とモデムダイヤルイン機能の併用はできません。
 - モデムダイヤルイン機能をご利用の場合は、必ず「ナンバーディスプレイBモード」（【7-1. 自動ベルモード】参照）で運用してください。
 - ダイヤルイン番号は、上書きでの変更が可能です。

動作イメージ
① 052-999-2222 へ発信 ② SUPER TAKE3 ND ③ 呼び出し

- 外線電話機から【052-999-2222】へ発信します。
- SUPER TAKE3 ND がダイヤルイン番号を識別します。
- ダイヤルイン番号が【052-999-2222】のモデム機器を呼び出します。

2. モデムダイヤルイン機能の設定方法

電話機のダイヤルイン番号を登録したいとき
受話器を上げ、④⑨⑨⑨⑨とダイヤルします。 続けて、④#③①⑦とダイヤルします。 次に電話機に割り当てたいダイヤルイン番号を市外局番から入力します。（例：[03-1234-5678]としたとき） 例）⑦③①②③④⑤⑥⑦⑧ 最後に、④#を押して受話器を置きます。

モデムのダイヤルイン番号を登録したいとき

受話器を上げ、**＊ 9 9 9 9** とダイヤルします。
続けて、**＊ # 3 2 0** とダイヤルします。
次にモデムに割り当てたいダイヤルイン番号を市外局番から入力します。（例：[0 3－1 2 3 4－9 8 7 6]としたとき）
例）**0 3 1 2 3 4 9 8 7 6**
最後に、**#** を押して受話器を置きます。

F A Xのダイヤルイン番号を登録したいとき

受話器を上げ、**＊ 9 9 9 9 9** とダイヤルします。
続けて、**＊ # 3 3 0** とダイヤルします。
次にF A Xに割り当てたいダイヤルイン番号を市外局番から入力します。（例：[0 3－9 8 7 6－5 4 3 2]としたとき）
例）**0 3 9 8 7 6 5 4 3 2**
最後に、**#** を押して受話器を置きます。

登録した電話機のダイヤルイン番号を削除したいとき

受話器を上げ、**＊ 9 9 9 9 9** とダイヤルします。
続けて、**＊ # 3 1 1** とダイヤルします。
最後に、**#** を押して受話器を置きます。

登録したモデムのダイヤルイン番号を削除したいとき

受話器を上げ、**＊ 9 9 9 9 9** とダイヤルします。
続けて、**＊ # 3 2 1** とダイヤルします。
最後に、**#** を押して受話器を置きます。

登録したF A Xのダイヤルイン番号を削除したいとき

受話器を上げ、**＊ 9 9 9 9 9** とダイヤルします。
続けて、**＊ # 3 3 1** とダイヤルします。
最後に、**#** を押して受話器を置きます。

登録したダイヤルイン番号の表示

受話器を上げ、**＊ 9 9 9 9 9** とダイヤルします。
続けて、**＊ # 3 4 0** とダイヤルします。
最後に、**#** を押して受話器を置きます。

8－5. 擬似無条件転送

1. 擬似無条件転送について

「擬似無条件転送」は、N T Tのサービス「ボイスワープ（応答後転送）※アナログ回線のみ」を利用し、あらかじめ登録された転送先電話番号に無条件に転送を行う機能です。
擬似無条件転送を設定すると、本装置は電話とF A Xの切り替えを行わず、すぐに転送先電話番号へ転送を行います。
●N T Tのサービスで「ボイスワープ（応答後転送）※アナログ回線のみ」に加入していただく必要があります。
●「ボイスワープ（応答後転送）」以外のボイスワープサービス（ひかり電話やI N S 6 4のボイスワープサービス）には対応していません。
●ダイヤルイン番号は、上書きでの変更が可能です。
●転送先の電話番号は、本装置の電源をO F Fにしても消えません。
●転送先の電話番号は、「1 8 4」や「1 8 6」などの番号を含めて登録ができます。
●N T Tの一部の電話番号は本装置の転送先電話番号として登録することはできません。（「1 1 7」や「1 1 4」など）

2. 擬似無条件転送の設定方法

N T Tボイスワープサービス「応答後転送を利用する」の設定

N T Tボイスワープを「転送開始」にしている場合は、あらかじめ「転送停止」にします。
受話器を上げ、**1 4 2** とダイヤルします。
ガイダンスが流れますので、続けて **4** とダイヤルします。（初期設定）
ガイダンスが流れますので、続けて **5** とダイヤルします。（応答後転送の設定）
ガイダンスが流れますので、続けて **1** とダイヤルします。（応答後転送ありに設定）
ガイダンスが流れますので、続けて **9** とダイヤルします。（操作の終了）
「プーッ、プーッ・・・」と聞こえたら設定完了です。受話器を置きます。
N T Tのボイスワープを「転送開始」にする必要はありません。「転送停止」にしてください。

ボイスワープの転送先電話番号の登録

受話器を上げ、**＊ 9 9 9 9 9** とダイヤルします。
続けて、**＊ # 2 0 0** とダイヤルします。
次に転送先電話番号を入力します。（例：転送先を携帯電話[0 9 0－1 2 3 4－5 6 7 8]としたとき）
例）**0 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8**
最後に、**#** を押して受話器を置きます。

無条件転送を開始する

かかってきた電話／F A Xの切り分けを本装置が行うことなく、すべての着信を転送先電話番号へ転送を行います。
受話器を上げ、**＊ 9 9 9 9 9** とダイヤルします。
続けて、**＊ # 2 0 1** とダイヤルします。
最後に、**3 #** と押して受話器を置きます。

無条件転送を停止する

本装置の無条件転送を停止します。
受話器を上げ、**＊ 9 9 9 9 9** とダイヤルします。
続けて、**＊ # 2 0 1** とダイヤルします。
最後に、**1 #** と押して受話器を置きます。

8－6. C N G信号検知O F F設定

1. C N G信号検知O F F設定について

C N G信号検知をO F Fにすることにより、本装置はC N G信号を検知しません。
そのまま電話機（電話機接続用モジュラー端子に接続された機器）を呼び出します。
（C N G信号を検知しないので、電話／F A Xの自動切替は行われません。）

2. C N G信号検知O F F設定の設定方法

C N G信号検知をO F Fにする

C N G信号を検知せず、電話機（電話機接続用モジュラー端子に接続された機器）を呼び出します。
受話器を上げ、**＊ 9 9 9 9 9** とダイヤルします。
続けて、**＊ # 2 1 0** とダイヤルします。
最後に、**1 #** と押して受話器を置きます。

C N G信号検知をO Nにする

C N G信号を検知し、電話／F A Xを自動切替します。（自動切替を行うのは、自動ベルモードのとき）
受話器を上げ、**＊ 9 9 9 9 9** とダイヤルします。
続けて、**＊ # 2 1 0** とダイヤルします。
最後に、**2 #** と押して受話器を置きます。

9. ディップスイッチ機能一覧

ディップスイッチナンバーと初期設定

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

白抜き文字は初期値

DSW No.	機 能	設 定	備 考
1	モード切替	上 自動ベル 下 リモート	自動ベルモード、リモートモードの切替スイッチです。
2	ナンバーディスプレイ	上 無し 下 有り	ナンバーディスプレイサービスと、通常回線との切替スイッチです。
3	音声ガイダンス有無	上 有り 下 無し	音声案内を有りにする、無しにするのスイッチです。
4	メンテナンス用	上 下	常に上にしてください。
5	メンテナンス用	上 下	常に上にしてください。
6	F A Xモード	上 無し 下 有り	F A Xモードを有効（有り）にする、無効（無し）にするのスイッチです。
7	トーン送出	上 有り 下 無し	対向サービスのためのトーンを送出する（有り）、しない（無し）のスイッチです。
8	自動モード切替	上 無し 下 有り	リモートモード設定時、1 0回コールで出なかった場合、自動ベルモードに移行するか、しないかを設定するスイッチです。
9	オンフック転送	上 無し 下 有り	オンフック転送をする（有り）、しない（無し）を設定するスイッチです。
1 0	瞬断検知	上 有り 下 無し	相手側が通話を切断了した場合、瞬断信号を検知する（有り）、しない（無し）を設定するスイッチです。

1 0. 故障と考えられるとき

症 状	確 認 お よ び 対 処 方 法
リモートモードランプ、自動ベルモードランプがいずれも点灯していない	・A Cアダプタが抜けていませんか？ ・アダプタがコンセントから外れていませんか？
電話・F A X・モデムから発信できない 発信しようとするど話し中の音がして発信できない	・回線は、本装置のL 1 L 2に接続されていますか？ ・各端末のダイヤル、プッシュの設定はあっていますか？ ・他の端末が回線使用中ではありませんか？ ・極性はあっていますか？ 極性反転を検知していませんか？
電話が受けられない 電話のベルが鳴らない	・電話機は本装置のT E L端子に接続されていますか？ ・電話機のベルが鳴らないようになっていませんか？
F A Xが受信できない	・F A Xは自動受信になっていますか？ ・F A Xの記録紙はありますか？ ・F A Xの電源は入っていますか？ ・F A Xは本装置のF A X端子に接続されていますか？ ・送信側F A XからF A X信号は送出していますか？ ・送信側F A XがF ネットを利用していませんか？
モデムが受信できない	・モデムは自動受信になっていますか？ ・モデムの電源は入っていますか？ ・モデムは本装置のモデム端子に接続されていますか？ ・本装置は自動ベルモードに設定されていますか？
電話機から「6」、「8」をダイヤルしても、F A X、モデムに切り替わらない	・「6」、「8」をダイヤル後、すぐに受話器を戻していますか？ ・F A X、モデムは本装置に正しく接続されていますか？ ・F A X、モデムの電源は入っていますか？ ・F A X、モデムは自動受信になっていますか？
発信側が電話を呼出中に課金されてしまう	・自動ベルモードになっていませんか？
外部から留守番電話のリモート操作ができない	・暗証番号「#」は登録してありますか？
発信側が電話呼出中に切っても呼出ベルが鳴る	・P B X、内線／専用線に接続されていませんか？
モデムダイヤルインでの着信ができない	・ナンバーディスプレイBモードで運用していますか？ ・ダイヤルイン番号は市外局番から入力していますか？

1 1. 製品仕様

収 容 回 線 数	1回線	消 費 電 力	6 V A (最大値)
接 続 端 末 数	3端末	温 度	5℃ ～ 4 5℃
回線接続方式	通信コネクタ	湿 度	2 0％ ～ 8 0％ R H
配 線 方 法	2線スター	本 体 寸 法	2 2 0×1 7 0×4 0 (D×W×H) (mm)
電 源	D C 1 5 V／4 0 0 m A (セッタ-マクス)	本 体 重 量	約5 0 0 g

1 2. お問い合わせ

本装置についてのお問い合わせは、販売店もしくは弊社までお願い致します。

株式会社 **レッツ** コーポレーション

■サービスセンター （月曜日～金曜日（祝日を除く）、9時1 0分～1 8時）
電話：0 5 2－2 0 9－7 8 6 0 ファックス：0 5 2－2 0 1－5 0 5 0

■営業お問い合わせ （月曜日～金曜日（祝日を除く）、9時1 0分～1 8時）
電話：0 5 2－2 0 1－6 2 3 0 ファックス：0 5 2－2 0 1－5 0 5 0

■本社
〒4 6 0－0 0 0 2
愛知県名古屋市中区丸の内2－2 0－1 レッツ丸の内本社2号館ビル

■東京営業所
〒1 0 4－0 0 6 1
東京都中央区銀座8－1 9－3 銀座竹葉亭ビル6 F

インターネットホームページ：http://www.lets-co.co.jp/